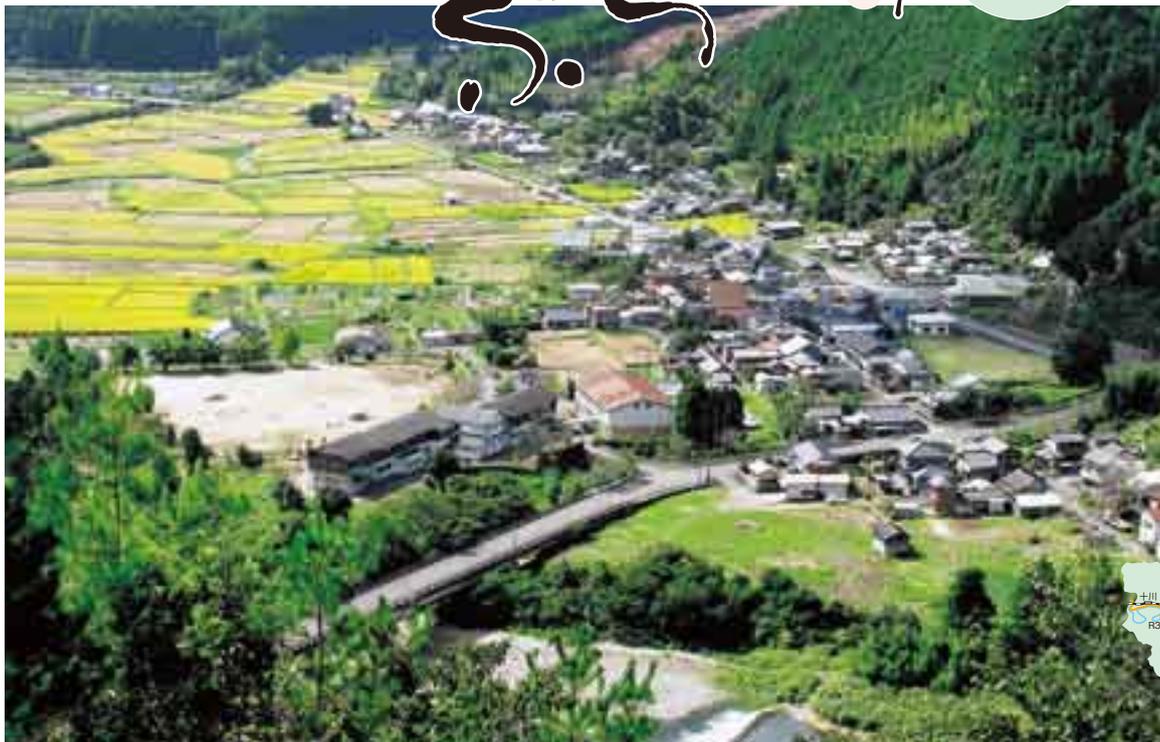


米奥



四万十川上流域に広がる のどかな田園地帯



集落は窪川中心部から県道19号線を松葉川温泉方面に向かって車で約15分のところにある。四万十川と合流する川奥川一帯の地域で生姜・米作りなど農業が盛んである。

集落の入口には平成7年に「四万十源流大橋」が架けられており、橋の袂には創立は明治時代にさかのぼる米奥小学校（現在、児童数・18名）がある。

米奥が元気になる活動に取り 組む門田先生



校長の門田先生は米奥小学校の「地域とともに米奥が元気になる活動」に取り組み「米奥・沈下橋夏祭り」の音頭をとった。当日は地区内外から約350名の参加があり盛況で、沈下橋の両側に並べられた間伐材桧による松明のライトアップも大変好評だったそうだ。学校を中心とした地域づくりを語る門田先生の熱い思いが伝わってきた。

故老の唄に合わせ盆踊り復活



10月4日の運動会では30年ぶりに復活した盆踊りが行われた。故老の「こっば踊り」、「こりや

せ音頭」の唄に合わせて踊るお年寄りの嬉しそうな顔が印象的だった。

保護者などの協力で作った森の 中の「東屋」



門田先生に学校のシンボルとして保護者などの協力で建てられた「東屋」が対岸の学校林にあると教えられ、いつてみた。急な作業道を30分余り上るとその頂上にながちりした丸太で建てられた「東屋」があった。少し離れた所に丸太で組まれた展望台も作られており、そこからは四万十川のほとりに点在する集落が一望できた。

米ノ川地域を支配した南部氏

学校から歩いて数分の小高い場所にかつて、奥州からやってきて米ノ川に城を築き、この一帯を支配した南部氏の墓がある。墓は苔むして文字は判然としなない。窪川町史には1300年ごろこの地にきたのではないかと書かれてあった。



川奥の花取踊りは県の無形文化財



米奥は小学校のある、米ノ川地区と川奥地区の二つからなる。川奥地区にある白河神社の「花取踊り」は昭和40年6月に県の無形文化財に指定されている。

項目	単位	基準値	8月18日
水温	℃	-	29.2
pH		6.5~8.5	7.5
BOD	mg/l	1.0以下	0.5
SS	mg/l	25以下	1
DO	mg/l	7.5以下	8.0
大腸菌群数	MPN/100ml	50以下	11000

注意1)測定値は全て速報値です。注意2)基準値は年平均値を対象とした数値です。(国土交通省中村河川国道事務所提供)

町の人口
(10月1日現在)

(男性)	9,606人
(女性)	10,773人
(計)	20,379人
(世帯数)	8,829世帯

平均年齢
(10月1日現在)

(男性)	49.0歳
(女性)	53.8歳
(全体)	51.5歳

四万十川流域の
水質状況
四万十川奥同地点

●四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●